

議会だより 6月議会は会派で重ならないよう調整し、私は新型コロナウイルス対策と教育、子育て支援について質問しました。

2月25日から約1ヶ月予定されていた予算議会は、新型コロナウイルス対策の対応で3月16日から27日に短縮されて開催されました。私は一般質問をする予定で質問原稿も用意しておりましたが、日程の関係で会派代表者1名の質疑だけとなりました。

また、4月30日と5月1日は新型コロナウイルス対策の補正予算で臨時議会が開催されました。

さらに6月議会は6月10日から6月17日に行われ、私は1時間の質問の予定でしたがこの議会も日程の関係で30分となり、会派で重ならないよう質問を調整し、新型コロナウイルス対策と教育、子育て支援について質問しました。内容は以下の通りです。



(一般質問)

1. 今後の感染症拡大時の危機管理について

一部ではこの秋冬には新型コロナウイルスが変異して、さらに深刻な状況になるのではとも言われています。万が一新型コロナウイルスが更に致死率が高いものに変異し、それが世界的に流行した場合は、医療物資や食料の輸入が停止して、食料自給率の低い日本では食料不足の事態に陥ることも考えられ、今回はマスクが手に入らないことで混乱したが、万が一食料や医療品が手に入らなければ更なる混乱が予想されます。そのため、今から地域の食料自給率を上げる努力や、行政が必要な備蓄品をストックしておくことはもちろん、それに加えていざという時に市民がパニックにならないよう、食料や衛生用品等、各家庭で日頃から計画的に少しずつストックしておくべきものを、市民に対して広報するなど、自然災害への備えと同様に感染症についても、市民にわかりやすい危機管理体制を作ることが必要と考えるが本市における今後の感染症拡大時の危機管理について尋ねました。

●市長の答弁(一部)

「3月下旬からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、医療用物資を国内で調達することが困難な状況が続く、市及び医療機関における備蓄品が一時的に逼迫する事態となった。幸い、中国大連市・友好都市からたくさんの資材を送っていただき、また大連市の協力を得て医療品の調達ルートを独自に開拓した。医療用物資の確保のためには、一層汗をかかねばいけないと思っており、万全の備えを行ってまいりたい。ご家庭での備蓄は市民の皆様にも、非常食や衛生用品等の必要物資は、防災ガイドブック等を参考に「備蓄を使ったら、使った分だけ新しく買い足していく」、いわゆるローリングストックに計画的に取り組むなど、少なくとも3日以上、できれば1週間程度といった備蓄に努めていただけると幸いである。本市として防災関連情報はもとより、感染症に関する最新情報も周知徹底することで、市民の防災意識、感染防止にかかる意識の向上に繋がるように努めるとともに危機管理体制の整備に取り組む。」とのことでした。

●第2質問

またこの秋冬の感染症拡大時の危機管理という点で、毎年冬場に多く罹患するインフルエンザは今年度は特に予防接種が重要と考える。ワクチンの確保と広報が重要。更にインフルエンザに罹患した場合重症化しないために早めに診療所に行きたくても、新型コロナウイルスが怖くて行けないということがないように対策を？(詳細は議会の議事録をぜひご覧ください。)



2. 子育て支援について

①放課後児童クラブについて

新型コロナウイルス対策の臨時休校時において、児童の受け皿として放課後児童クラブに突発的な要請があり、指導員や関係者の皆様の大変さは尋常ではなかったと思います。

今後の放課後児童クラブのあり方について各クラブの指導員の方々や保護者の皆様等にアンケートを取ってみたいかがか？その上で指導員の配置基準の拡充等、放課後児童クラブへの本市独自の支援を行っていただきたいと思うが見解を尋ねました。子ども家庭局長は「放課後児童クラブの運営についてはアンケートを取るなど、引き続きクラブの皆様の声にしっかりと耳を傾け円滑に運営できるよう全力で支援してまいりたい」とのことでした。

②困難を抱える家庭の子どもたちの支援について

新型コロナウイルスの影響で経済的に厳しいご家庭が増えています。そのような中、食品関連企業等より寄贈された食品等を集め、福祉施設や生活困窮者の支援団体等に配る「フードバンク」の活動が注目されている。同時に家庭などで食べきれず余っている食品を持ち寄り、施設やフードバンク等に提供する「フードドライブ」やひとり親や生活困窮者など生活に困っている人々に食料を配布するための地域の拠点「フードパントリー」の活動も広がっています。困難を抱える家庭の中で、お腹をすかせている子どもたちが直接食べ物を受け取れるしくみが必要。長期間学校給食がない状態で、子ども食堂にも行けずお腹を空かしている子どもがいるのではないかと心配をしている。福岡市では防災備蓄食料を、子ども食堂を通して無償提供されているが本市においてはどうか？

また子どもたちにとって食事と同様にとても大切なことが学習する事。各教科ごとのノートや鉛筆、コンパス等、文具もいろいろと必要になれば結構お金がかかる。そこで各家庭や企業などには、不要な鉛筆やノート、ボールペンなど未使用の文具が結構残っている。それらを指定場所を決めて集め、それを必要な子どもたちに使ってもらう活動を、本市の特定非営利活動法人あそびとまなび研究所が取り組んでいるが、フードバンクならぬステーションリーバンクという感じで、本市でもっと広がってほしい。ぜひこのような活動を市として支援し広げていくことができないか見解を尋ねました。

子ども家庭局長は、今後もより一層企業や団体との連携を深めることで、寄附をいただきやすい機運の醸成を図るとともに、担い手である子ども食堂の運営団体への支援を行い、経済的に厳しい状況に置かれた子育て世帯に食料品や文具等を届けることができるよう、全力で取り組むとのことでした。

3. 教育について

①学力について

②夏休みの学校給食について

今回は例年の夏休み期間に、中学生は1日、小学生は午前中まで授業を行うとのことだが、放課後児童クラブを利用する児童もおり、猛暑の時期の弁当持参は食中毒が危惧される。簡易でも昼食の提供をすべきと考えるがどうか尋ねました。

昼食の提供は今後の検討課題とする旨の答弁でしたが、検討していただいた結果、7月20日(月)～7月31日(金)まで小学校、中学校、特別支援学校で給食を提供されることになり、8月3日(月)～8月5日、8月17日(月)～8月26日(水)までは中学校だけですが、パンと牛乳が提供されることになりました。

③児童と保護者のメンタルサポートについて(時間の関係で要望)